

2026 年度(令和 8 年度)学校評価自己評価表

福山市立中央中学校区	校番 53	福山市立西深津小学校
最終更新日		2026 年(令和8年)4月 30 日

I 福山市

めざす姿	すべての子どもたちが、自分自身の成長を実感できる学校教育の実現
------	---------------------------------

II 中学校区

<p>前年度学校運営協議会(学校関係者評価)の主な内容</p> <p>○現状から何をどう改善することで、子どもたちの力が伸びるのが具体的に話し合わせ、教職員のやる気が児童生徒に伝わっている。</p> <p>●学力について課題が見られる。具体的な方法をより考えられ、一人一人の力が伸びるようにお願いしたい。</p>	<p>児童生徒の現状</p> <p>○友達と力を合わせて、行事や課題に取り組もうとする児童生徒が多い。</p> <p>○自分の考えを表現したり、仲間の意見を聞き、再考したりする力がある。</p> <p>●全国学力調査等の結果から算数科・数学科、国語科の基礎的な力に課題がある。</p> <p>●減少傾向にあるものの不登校傾向にある児童生徒数の出現率が高い。</p> <p>●自己肯定感が低い児童生徒が多い。</p>	<p>育成する資質・能力</p> <p>めざす子ども像(義務教育修了時の姿)</p> <p>中学校区として統一した取組等</p>	<p>「学びに向かう力」 「課題発見・解決力」 「自己肯定感」</p> <p>ふるさとを愛し、地域の中で、伸びやかにたくましく成長する子</p> <p>1 コミュニティ・スクールに係る取組の推進 2 校区合同で実施する授業研究 3 中学校生徒会による「学校紹介」の実施 4 校区校長会、校区教頭会、校区主任会等を通しての連携</p>
--	---	--	--

III 自校

学校教育目標
「学ぶ楽しさ、生きる喜び」をもつこどもの育成

現状
<p><児童生徒></p> <p>○児童が日常の生活の中で主体性を発揮し、自ら計画・実行しようとする気持ちが高まってきている。</p> <p>○地域を題材にした活動に積極的に取り組み、地域に愛着を感じている。</p> <p>●自分や周りの人の良さを認め合ってきているが、さらに自己肯定感を高める取組。</p> <p>●不登校気味な児童が多くなっていること。</p> <p><授業></p> <p>○学びに向かう意欲をもち、楽しみながら学習活動に取り組んでいる。</p> <p>○算数科や国語科で、基礎学力の向上が見られる。</p> <p>●自分の考えや思いを自分の言葉で表現し、対話により学習を深めること。</p> <p>●知識・技能を生きて働く知識・技能に高め、思考力・表現力・判断力の向上につなげていくこと。</p>

育成する資質・能力	A【学びに向かう力】 B【課題発見・解決力】 C【自己肯定感】	
めざす子ども像	低	A 「学ぶこと」のおもしろさを感じ、学んだことを身の回りの生活とつなげて考えたり、生活の中に取り入れたいとすることができる。 B 身の回りの事象から興味・関心・疑問をもとに課題を見付け、学んだことや経験をもとに課題を解決しようとするすることができる。 C 身の回りの他者や環境との関わりの中で、自分の良さを見付けたり、自分は大切な存在であることを感じたりすることができる。
	中	A 「学ぶこと」のおもしろさに気づき、学んだことや体験したことを生活に活かそうとすることができる。 B 自分なりの課題を設定し、見通しをもって方法を選択し、他者と考えを交流しながら、解決しようとするすることができる。 C 他者や周りの環境との関わりの中で、自分自身をみつめ、自分の良さや特徴を受け入れることができる。
	高	A 「学ぶこと」のおもしろさを認識し、学んだことや考えたことを生活や学習に活用しようとするすることができる。 B 自ら課題を設定し、手段や情報を自分で選択し、多様な他者と協働的に活動しながら課題解決に向かい、新たな課題を見つめることができる。 C 自分自身を理解し、自分の目標や夢に向かって挑戦し、自己肯定感を高めることができる。
研究	テーマ	主体的・対話的で深い学びの創造
	内容等	○単元の系統性を把握し、認識調査を基にした単元構想を行う。 ○単元の見方・考え方を明確にし、それらを働かせるための場の設定や効果的な問い返しの工夫を行う。 ○児童理解を深め、一人一人に確かな知識・技能を身に付けさせる。
めざす授業の姿	○見方・考え方を働かせ、「なぜ？」と考えさせるとともに、「できる・使いたい」につながる授業 ○家庭や地域とのかかわりを大切にした題材開発及び学ぶ必要感や実践意欲を高める手立てを行う授業	

Ⅳ 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立西深津小学校

年目	中期経営目標	重点	分類	短期経営目標	目標達成に向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)				最終評価(2月末)			
							□指標に係る取組状況	プロセス評価	達成評価	改善方策	□指標に係る取組状況 ◎短期(中期)経営目標の達成状況	プロセス評価	達成評価	総合評価
9	児童の主体的・対話的で深い学びの全教室展開	★	継続	生きて働く知識・技能の力の獲得をもとに、思考力・判断力・表現力を高める。	<ul style="list-style-type: none"> 児童の実態を把握して単元、授業構想を行う。 働かせたい見方・考え方を明らかにした教材研究を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 単元末テスト(算数科)知識・技能B以上を75%以上 思考・判断・表現B以上を65%以上 各学年、年1回以上単元構想を行う。 								
6	安心して、自己の可能性を發揮できる環境づくり	★	継続	心と体の成長のために、規則正しい生活リズムを身に付ける。	<ul style="list-style-type: none"> 生活習慣の七つの目標を立て、月に1回生活振り返り週間を設けて、達成状況を振り返りながら改善を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 七つの目標の達成度合いを80%以上にする。 								
				学校と地域が協力して、特色ある学校づくりを進める。	<ul style="list-style-type: none"> 生活科、総合的な学習の時間を中心とした教科や行事の中で、地域の人・もの・ことの資源を活用した活動を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童アンケート「自分たちの住んでいる西深津が好き」肯定的評価を85%以上 児童アンケート「地域の行事に参加している」肯定的評価を60%以上 								
4	教職員がやりがいを持ち、よさを發揮できる取組の推進		継続	教職員が、個性を發揮し、積極的に教育活動に取り組む、やりがいを高める。	<ul style="list-style-type: none"> 教職員同士が成功体験などを共有し合い、対話を通して相互理解を深め、信頼関係の構築を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 教職員アンケート「仕事にやりがいを感じている」90%以上 								

[プロセス評価の評価基準]

[達成評価の評価基準]

[総合評価の評価基準]

評点	評価基準
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。

評点	評価基準
5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。
4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。
3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。
2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。
1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。

評点	評価基準	
5	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた。
4	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた。
3	60%以上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた。
2	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった。
1	40%未満の達成度	目標を達成できなかった。